

太陽がいっぱい

～「市民科学」による低緯度オーロラ観測から
太陽黒点データレスキューまで～



日時 2024年11月1日(金)

第1部:観望会 18:15～19:15

(※悪天候の場合：天文部のデジタルプラネほか、自由参加の企画を検討)

第2部:講演会 19:30～20:40

(※第1部のみ、または第2部のみ参加も可能です)

集合
場所

長野工業高等専門学校図書館2階 視聴覚室
(※第1部、第2部共通)

講師

大西 浩次 (長野工業高等専門学校教授)

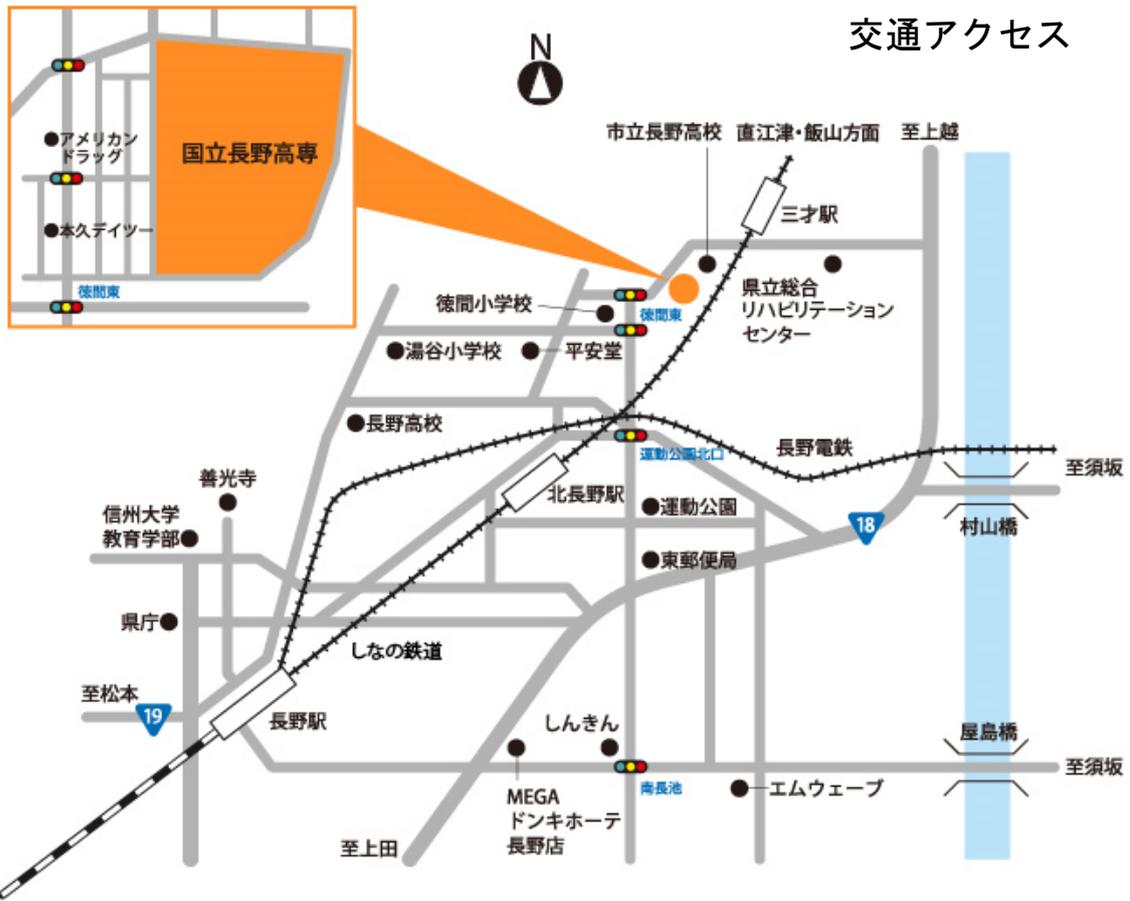


いま、太陽活動が盛んです。約11年周期のピークを迎え、大きな太陽フレアが出現し、大きな磁気嵐を起こしています。今年は長野県内でも2度の低緯度オーロラが出現しています。もし、最大級の磁気嵐が起きた際には、大規模停電や人工衛星の故障などの地球規模の大災害がおきると言われています。このため、太陽活動のモニターや予報(宇宙天気予報)が重要になってきました。ところで、この予報の基準は、ガリレオ以降、400年間にわたる太陽黒点の観測データです。ところが、理科年表にも出ている太陽黒点の時系列が、最近、「うまく」つながっていないことが分かりました。そのため、400年間の太陽黒点数の見直し(太陽黒点数校正)が始まっています。私たちは、多くの市民と協働で、長野県内の長期に渡る太陽黒点観測者の記録のデータレスキューを行っています。始めに、約100年前の旧制諏訪中学校の教員・三澤勝衛の太陽黒点のスケッチを調査・解析し、現在の太陽黒点数の校正に重要な寄与があることが分かりました。今回、このような市民による科学的探究活動、「市民科学」の現状について紹介します。なお、当日、紫金山・アトラス彗星が明るい場合には、彗星の話題もお話しします。

お問合せ先

電話：026-295-7005 メール：tosho[at]nagano-nct.ac.jp 事前申込は不要です。直接会場にお越しください。
長野工業高等専門学校図書館 足立

交通アクセス



校舎棟配置図

国立長野高専

